

# 農業試験場（北海道立総合研究機構 農業研究本部）の概要

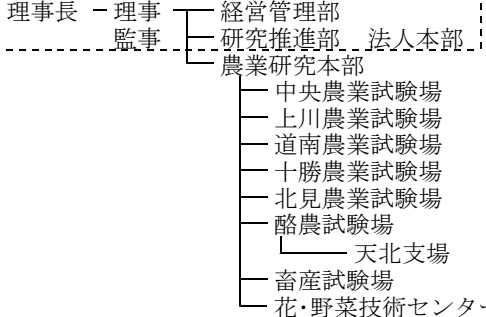
（令和6年4月1日  
北海道農政部技術普及課）

## 1 役割

- 道立農業試験場は平成22年4月に新たに設立した地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部に移行

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

※参考：機構図（関係分）



- 今後も本道における農業技術開発の中核機関として、主に実用技術開発を実施
- 作物育種や家畜改良、持続的農業の発展のための技術、農産物の安全と品質向上技術など、農業における生産性と収益の向上や環境の保全、地域の経済発展に大きく貢献
- なお、研究の推進にあたっては、北海道、農業改良普及センターや基礎的研究を実施している北農研センターなどと連携を図りながら実施

## 2 沿革

- 前身は、明治時代の開拓使牧牛場や国の農事試験場など
- 幾多の統廃合など変遷を経て8場1支場体制
- 地方独立行政法人へ移行後、現在は第3期目（R2～R6年）の中期計画期間

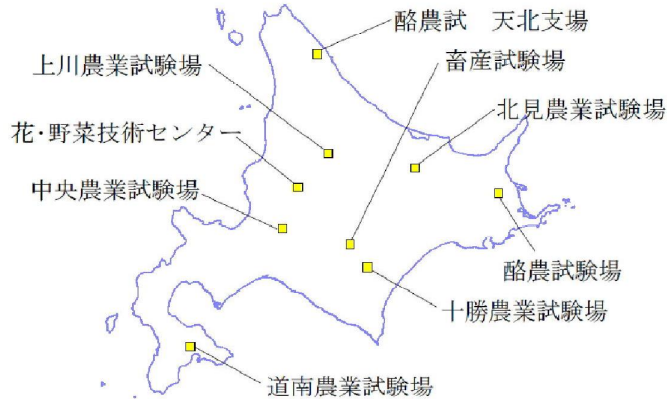
## 3 研究体制

- 地方独立行政法人への移行に伴い、農業研究本部が設置され、農業試験場を統括
- 各農業試験場はそれぞれ担当分野、担当地域を設定し、地域毎の課題に対応
- 令和6年4月現在、職員配置数は、416名（うち研究職 260名）※他機関への出向職員を除く

## 4 試験研究予算の状況

- 農業試験場の運営にかかる予算は令和6年度で約18.9億円  
うち試験研究関連費は、約7億円

## 道総研 農業試験場の配置



## ○道内の農業関係試験研究機関

機関名等	主な研究内容
道総研 農業試験場(8場1支場)	実用技術開発
農学系大学5校(北大、畜大、酪大、東農大、拓殖短大)	学術的研究
国立研究開発法人農業・食品産業技術総合機構2場(北農研センター・動物衛生研究部門札幌研究拠点)	基礎的・先導的研究(学術～実用)
地域農業技術センター(52機関)	地域応用試験
民間試験研究機関(資材・種苗会社など)	資材試験、育種 他

## ○沿革

- 1876(明治9年) 開拓使牧牛場(後の新得畜試)を札幌市真駒内に設置
- 1901(明治34年) 北海道農事試験場が国により札幌に設置
- 1950(昭和25年) 国立と道立に分かれ、道立農試は、札幌に本場、渡島・上川十勝・北見・根室・天北に支場、滝川に原々種農場
- 1964(昭和39年) 本・支場を廃止し、10場体制(7農試、2畜試、1農場)
- 1987(昭和62年) 原々種農場を植物遺伝資源センターに再編
- 1996(平成8年) 花・野菜技術センターを滝川市に設置
- 2000(平成12年) 滝川・新得の2畜産試験場を「畜産試験場」に統合
- 2006(平成18年) 天北農業試験場を上川農業試験場の支場とするとともに、植物遺伝資源センターを中央農業試験場に統合
- 2010(平成22年) 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構に移行
- 2018(平成30年) 「根釧農業試験場」が「酪農試験場」に「上川農業試験場 天北支場」が「酪農試験場天北支場」に名称変更

## ○研究体制(R6年度)

場名	職員数	研究職	主たる担当分野	担当地域	所在地
研究本部	31	16	研究企画・調整	全道	長沼町
中央農試	82	70	全分野(除く畜産)	道央圏	長沼町
上川農試	29	21	稲作、畑作、園芸	道北圏	比布町
道南農試	21	13	稲作、園芸	道南圏	北斗市
十勝農試	41	32	畑作、園芸	十勝圏	芽室町
北見農試	39	30	畑作、園芸、草地	オホーツク圏	訓子府町
酪農試	46	20	酪農、草地	全道 釧路・根室圏	中標津町
天北支場	9	5	草地	道北圏	浜頓別町
畜産試	90	37	家畜、草地	全道	新得町
花・野セ	28	16	園芸	全道	滝川市
計	416	260			

## ○試験場予算の状況

(単位：百万円)

区分	H31	R2	R3	R4	R5	R6
試験研究関連	637	582	618	673	666	704
維持管理関連	957	1,012	1,038	1,044	1,170	1,185
施設等整備関連	0	0	192	486	197	145
計	1,594 (1,183)	1,594 (1,235)	1,848 (1,410)	2,203 (1,698)	2,033 (1,274)	2,034 (1,295)

(カッコ内は道費または道交付金、合計は人件費除く。)

5 研究成果

- ◇ 新品種や低コスト・省力生産技術の開発などを通じて、本道農業の生産性の向上に大きく貢献
- ◇ 本道で作付されている水稻、小麦、大豆等の品種のほとんどが道総研 農業試験場の育成品種
- ◇ 農畜産物の品質や家畜衛生に係る研究、生産性向上を目指した実用技術等を開発するとともに、農業情勢の変化に的確に対応するため、プロジェクト研究体制の下で、クリーン農業技術や家畜ふん尿処理利用技術などを開発

○開発した主な品種 ※は共同育成品種

作 目	品 種 名	特 長	育 成 場	育 成 年
水 稻	そらきらり	多収、いもち病抵抗性強、中食・外食向け	中 央	R05年
	えみまる	多収、直播適性、低温苗立性強、良食味	上 川	H30年
	そらゆたか	早生、多収、飼料米	中 央	H28年
	きたしずく	大粒、多収、心白発現良好、酒造適性良好、耐冷性強	中 央	H26年
	きたふくもち	切り餅適性良、硬化性高、耐冷性極強、多収	上 川	H25年
	ゆめぴりか	極良食味	上 川	H20年
小 麦	北 見 95 号	菓子適性	北 見	R02年
	きたほなみ	多収、日本めん適性良	北 見	H18年
大 豆	とよまどか	白目、豆腐加工適性高、低温障害耐性強、耐倒伏性強	十 勝	H30年
	スズマルR	白目小粒、納豆加工適正良、線虫抵抗性極強	中 央	H27年
小 豆	きたまるは	茎疫病抵抗性、コンバイン収穫適	十 勝	R05年
	きたひまり	茎疫病・落葉病抵抗性、耐倒伏性	十 勝	R03年
いんげん	舞 て ぼ う	手亡、耐倒伏性強、成熟期葉落ち良、製餡適性良	十 勝	R05年
	秋 晴 れ	金時、早生、耐倒伏性、黄化病抵抗性強、加工適性	十 勝	H31年
	か ち ど き	金時、中生、多収	十 勝	H29年
馬 鈴 し ょ	ゆめいころ	生食用、早生、線虫・そうか病抵抗性、塊茎の目が浅い	北 見	R03年
	さらゆき	線虫抵抗性、中生、ポテトサラダ加工適性	北 見	H31年
	ハロームーン	線虫抵抗性、多収、油加工（ポテトチップ）適性	北 見	H30年
	コナユタカ	でん粉原料適性、線虫抵抗性強、多収	北 見	H26年
たまねぎ	すらりっぷ*	加熱加工適性良、加工歩留まり高、多収	北 見	H28年
	ゆめせんか	加熱加工適性良、乾物率高・Brix高	北 見	H24年
いちご	ゆきララ	大果、規格内収量多	花 野	H28年
メロン	おくり姫*	赤肉、良食味、耐病性（うどんこ病、えそ斑点病）	花 野	H27年
やまのいも	と ち ち 太 郎	多収、えそモザイク病抵抗性中	十 勝	H25年
おうとう	陽 ま り	大玉、良着色、良食味、交雑和合性	中 央	R04年
ぶどう	スイートレディ	高糖度、良食味、無核（種子痕跡小）	中 央	H26年
牧草(フェン)	北 見 3 6 号*	早生、混播適性優、越冬性並、栄養価優	北 見	R06年
	センリョク*	中生晩、耐倒伏性、多収、高栄養価	北 見	R02年
肉牛	勝 早 桜 5	黒毛和種雄牛、産肉能力高、産子発育能力高	畜 試	H26年
豚	ハマナスW2	産肉・繁殖能力高、肉質良	畜 試	H21年
鶏	北 海 地 鶏 III	産肉・増体能力高、肉質良	畜 試	H31年

○開発した主な新技術

内 容	担 当 場	発 表
水稻「そらきらり（空育195号）」の栽培管理指標	中 央	R06年
園芸作物における堆肥入り複合肥料の特性と活用法	道 南	R06年
多発傾向に対応した秋まき小麦の赤さび病防除対策	中 央	R06年
青色LEDを利用した大豆のマメシクイガ防除技術	中 央	R06年
北海道における醸造用ぶどうの品種特性および気象条件からみた糖度酸度予測	中 央	R06年
自動操舵システムおよびセクションコントロールの効果と導入条件	十 勝	R06年

○開発中の新技術等

作 目 等	内 容
水 稻	・極良食味米（コンヒカリ以上の食味）、直播栽培向けの食味に優れた品種及び業務用多収品種の開発
小 麦	・麺、パン、菓子の加工適性に優れた病害・障害に強い品種の開発
豆 類	・豆腐、製あん、煮豆等の加工適性に優れた病害・障害に強い品種の開発
馬 鈴 し ょ	・長期貯蔵が可能な加工用品種やDNAマーカー選抜による病害虫複合品種の開発
野 菜	・果実品質の高い春どり作型向けいちご多収品種の開発
	・品質向上および省力・低コスト化技術と貯蔵技術の開発
畜 産	・国産自給飼料確保に向けた高生産性牧草等と安定栽培法の開発
	・人畜共通感染症等の家畜病害の予防及び診断手法の開発
	・黒毛和種の牛群改良や繁殖・飼養技術の開発
	・牛のげっぷに由来するメタンの低減技術の開発
環 境	・クリーン農業・高度クリーン農業・有機農業技術の開発
	・水稻・畑作等の低コスト・安定多収技術及び農地環境保全技術の開発
品 質	・加工適性や機能性に優れた農産物の選別技術確立と高付加価値化食品の開発
農 業 機 械	・ICTを活用した生産技術や再生可能エネルギー利用法の開発
経 営	・省力化・コスト低減効果の解明および新たな政策に対応した経営指標の策定
地 域	・新開発技術の地域導入を図る実証的試験及び既存技術を組み合わせる体系的な解決を図る体系化試験